

桜井市こども食堂

さくらい子ども食堂

毎月第4土曜開催



桜井駅南口ロータリーのかどっちょ。

開催を知らせる大きな看板とくまのぬいぐるみ。そしてスタッフの笑顔。

「こんにちは～」と中に入るとシャランシャランと涼しげな音がお出迎え。

こども食堂のお手伝いを…とサポートステーションの利用者とボランティアが「こちらにどうぞ」と席をすすめてくれました。

室内は清潔感のある白い椅子とテーブル。壁には“未来にむかってのびろ～のびろ～”

と語りかけるかのような色彩鮮やかな元気がでるタッチの絵。

また、こども食堂を始めた頃からの寄付の一覧が貼ってありました。みんなに支えられてるということを忘れないため(?)

さくらい子ども食堂はもともと就労支援の視点からスタートし、はや5年半。

コロナ禍の時にも、施設が喫茶形式という強みを活かし感染予防対策を行いながら休まず70回以上続けてきたとのこと。

大きなくまが
シンボル

たった1回だけやむ負えず休んだのは7月。台風接近で…と悔しそうに話されていました。

過去開催した中には、高齢者がこどもに折り紙を教える光景もあったそうで、「とてもほほえましく見守っていました」とスタッフ。



本日のメニューはカレーライス、からあげ、サラダ、スイカ。
普段はカレーが苦手な子もここではおかわりをして食べるそう…
部活帰りの高校生たちがのぞいて、「ぼくたちもたべられますか?」「どうぞどうぞ〜」と。それから時々、「また来ましたあ」と訪れてくれるそうです。親子連れは、こども食堂マップをみてきたとのこと。ここへ来て嬉しいことの質問に「友だちにあえる」と小学生。「お昼ご飯助かります」



と保護者。今回は全国こども食堂支援センター・むすびえの協力でこどもにマクドナルドのバーガーセットの引換券をプレゼント。こどもたちは「やったあ〜。」と嬉しそう。

今後は、社会とのつながりが途切れなくしていけるように、高齢者ももっと気軽に利用してもらえそうな、“地域食堂”にしていきたいと思いを話されました。



あとながき

スタッフとの話の中で「名前は知らなくとも、顔は知っている。その関係性が困ったときの相談できる場につながる」と話されました。「おいしかった」「また、来月来るわあ」次の月、「また来たよお〜」と毎月、顔を見ると「元気でいてくれた…」とホッとするんですと教えてくれました。。“あそこに行くとあの人がいる”“わたしを待っていてくれる”と思うことが出かける意味、そして、社会と関わりを切れずにもっていくことにつながっていくのかもしれないなあと感じた取材の機会でした。

